

2023年度（令和5年度）事業報告

障害者支援施設 木埋学園

1 施設を取り巻く現状と課題

(1) 事業の種類及び利用定員

- ① 生活介護事業 22名
- ② 施設入所事業 23名
- ③ 短期入所事業 2名

(2) 縣市町村等からの受託、補助事業等

- ① 日中一時支援事業（人員配置ができず、11月より廃止とする）
- ② 生活困窮者就労訓練事業 1名

(3) 地域における公益的な取組

- ① 町内の清掃活動（イオン清掃・町内一斉清掃）
- ② ペットボトルキャップ回収（キャップリサイクル及び、ワクチン代への寄付）

(4) 運営方針

利用者様の人権を基本とし、利用者様が安心・安全で健康に生活できるように利用者個々に応じたサービス提供に努めて参りました。利用者様の身体的機能の低下・重度化に対応していく為の、知識の習得（知的障害に関する知識・技能）の外部研修や、研修報告を周知するための内部研修など、職員へ周知の場を設けました。

虐待防止についても、毎月の職員会議にて、職員に発表の場を設けることで、虐待に関する事項や、意識をさらに深め、取り組みの強化に努めました。また、相談支援事業所と連携しながら、情報共有を行い、サービス等利用計画に沿って、個別支援計画書を作成し、ご家族・利用者様一人ひとりの意思や課題、ニーズをもとに、支援計画の策定に努めて参りました。利用者様が、健康に過ごしていただくために、栄養ケア計画の進捗状況をモニタリングで把握するとともに、協力医・嘱託医・看護師・管理栄養士・担当職員が連携を図り、施設全体で情報共有し、健康管理と、栄養管理の徹底にも努めました。また、ヒヤリハットや事故報告書の検証や振り返りを行い、利用者様が安心して生活できるように職員の意識を再確認してもらう場の提供に努めました。住環境の整備や修繕を計画的に実施してきましたが、まだ実施に至っていない箇所につきましては、次年度の計画に引継ぎ、継続して安心・安全に生活していただくよう支援に努めます。

2 施設の実施策と取組の方向性

(5) 職員が働きやすくやりがいを感じられる職場づくり

ア 福祉・介護業界のイメージアップを図り、多様な働き方を推進する。

実施施策	魅力ある施設づくり（達成率 60%）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・各事業所により異なるイメージがある ・他の施設ではどのような働き方をしているのかわからない。
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ① HP の活用 ② 広報誌配布、他施設の働き方、取組を取り入れる。 ③ 関連施設との情報共有の場を設ける（他事業所への見学）
取組の結果	<ul style="list-style-type: none"> ① 施設見学の希望をしたいという依頼が増えている。施設の認知度は上がっているため、継続実施。 ② 利用者様の写真を多く取り入れることで、ご家族から好評であった。 ③ 清明あけぼの学園・糸口学園（児童入所）糸口厚生園・第二みろく園（障害者支援施設）へ見学に出向き、職員との情報交換を行った。内部研修にて報告実施。

イ OJT 制度を中核に職員一人ひとりを育成し、チームケアを推進する。

実施施策	育成体制の構築（達成率 70%）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・指導する時間がとれていない ・担当職員により指導に差が出る
取組の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ① 新人職員が質問しやすい環境づくりとフォローづくり ② メンター側への育成（定期的な面談の場を設ける） ③ 指導内容の統一
取組の結果	<ul style="list-style-type: none"> ① 若い職員が多いため、互いに話しやすくフォローも声を掛け合いながら行っている。相談もできていると声があるため、継続実施していく。

	<p>②メンターへの面談はうまく行えなかった。新人職員への指導についてはチューターを中心に行うことができた。</p> <p>③ケース会議で決定した支援事項を報告し、翌月のケース会議で振り返りを行うなどして、職員間で支援の統一を図ることができている。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

ウ 職場風土を改善し、職員の定着率とモチベーションを高める。

実施施策	コミュニケーションの活性化（達成率 90%）
現状と課題	男女職員の休憩の場所が異なり、コミュニケーションが取れにくい。支援方法が異なるため、情報共有が出来ていない。
取組の方向性	<p>①男女交えての休憩時間を設け、情報交換を行う</p> <p>②新館・旧館と職員が離れて支援をしているため、互いに助け合い、業務内容を共有していく。</p>
取組の結果	<p>①若い職員が多いため、男女問わず一緒に休憩時間を過ごす姿が見られるため、継続実施する。</p> <p>②旧館配置の職員が孤立することが多く、基本は2名体制で利用者様の支援をするよう意識づけを行ってきた。女性職員も旧館成人棟で支援を行うなど、それぞれの意識が高まっている。</p>
実施施策	個別支援の強化（達成率 60%）
現状と課題	自閉症・精神障害や、身体的機能の低下により、集団での活動が難しく、障害特性に応じた手厚い支援が行き届いていない。
取組の方向性	①職員との個別支援を増やすことで、職員にもゆとりが持てたり利用者にも安心感を与えられる機会を増やしていく。
取組の結果	① 集団での活動が困難な利用者様に対し、個別の時間を設けることで、利用者様も楽しみが増え、情緒安定に繋がるケースが増えている。職員も丁寧な支援が行えている。

エ 業務の生産性を高め、ワークライフバランスを推進する。

実施施策	業務改善による時間外労働の削減(達成率 60%)
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・勤務中に仕事が終わらず残業が増える ・勤務外での利用者様の買い物が多い
取組の方向性	<ol style="list-style-type: none"> ①業務時間の見直し ② 通販等のサービスの積極的な活用。
取組の結果	<ol style="list-style-type: none"> ① 勤務時間は年度当初に早出と遅出の時間帯を変更。突発的な利用者様の対応などでの残業はあるものの、それ以外では勤務時間内に収まっている。 ② 勤務時間内で職員が個別外出などを利用し、必要な買い物も実施する時間を設けている為、通販等のサービスは実施していない。

(6) 利用者児の生活を支えるサービスの質の向上

ア 先進的で魅力あるサービスを提供し、サービスの質を高める。

実施施策	日中活動の充実(達成率 50%)
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・マナー化している ・活動ができる方・できない方との差がある ・身体的機能の低下 ・費用が限られている
取組の方向性	<ol style="list-style-type: none"> ①個々の特性に応じた活動の工夫 ②ミュージックセラピーを取り入れる ③ 興味や楽しめることを探求する
取組の結果	<ol style="list-style-type: none"> ① 個々の特性に応じた活動に加え、個別支援などを週案に組み込み、活動を行っている。1か月に1度、由布市主催の「障害を通じた障害者の学び支援事業」日中活動事業に参加しているため、継続実施。 ② ミュージックセラピーについては取り組み実施ができていない。 ③ 利用者様の感覚的・視覚的な特性を捉えながら、個々に応じた遊具や企画の提供に努めた。継続実施。

イ 安心安全で快適な暮らしを保証し、利用者児の満足度を高める。

実施施策	環境整備による満足度の向上（達成率 60%）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・個室がなく死角が多い ・障害特性にそぐわない建築 ・バリアフリーではない。
取組の方向性	<ol style="list-style-type: none"> ① 介護用品や自助具などの積極的な導入 ② バリアフリーを検討する
取組の結果	<ol style="list-style-type: none"> ① 歩行困難な利用者様については、自助具を利用し歩行訓練も兼ねながら支援を行っている。 ② 年度初めに県へ相談しながら新館遊戯室・旧館重度棟廊下の間仕切を行い、空間を分けている。生活スペースを分けたことで、事故などに繋がらず生活できている。

ウ 施設機能を積極的に開放し、地域とのつながりを強化する。

実施施策	地域貢献（達成率 70 パーセント）
現状と課題	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍において地域との交流を制限することが増えた。 ・ボランティアが少ない
取組の方向性	<ol style="list-style-type: none"> ① 地域活動に積極的に参加する ② 実習生の受け入れは定期的におこなっているため、実習終了からも継続した関係を維持するため、広報誌などを発送する。
取組の結果	<ol style="list-style-type: none"> ① イオン清掃に参加している。ボトルキャップ回収については 65 袋の回収ができ、社会貢献に繋げることができた。 ② 夏季まで別府短期大学の実習の受け入れ、学園の広報誌を紹介し、実習終了後もボランティアの参加を促したが参加には至らず。

(7) 安定的で持続的な経営基盤の確立

ア 収入の安定確保と経費増大の抑制で、安定性の高い財務体質を維持する。

実施施策	定員の確保（達成率 50%）
現状と課題	生活介護・施設入所ともに定員に満たしておら

	ず、相談支援事業所などと連携しながら利用者の確保に努めているが、医療を必要とされる方や、車椅子の必要性がある依頼が多く、また、個室を希望される家庭が増えていることから、受け入れが困難となっている。
取組の方向性	①相談支援事業所・市町村との連携を継続する。 ②外部からの定員確保に努めていく。また日中一時・短期入所の受け入れも継続して行う。
取組の結果	① 他法人のGHに入居されていた利用者1名が施設入所契約を行った。3月末には生活介護・施設入所契約1名が締結している。 ② 短期入所依頼が多く、入所されている利用者様や障害特性を鑑みながら相談に応じていく。

イ 中長期的な視点をもって、持続性の高い経営を行う。

実施施策	緊急性の高い箇所の整備（達成率 60%）
現状と課題	障害特性にそぐわない施設環境である。老朽化しており、破壊行為や多動な利用者様もいるため、利用者様が安全に生活できるよう整備が必要である。
取組の方向性	①緊急性や危険性がある箇所の修繕を行っていき、環境整備に努める。
取組の結果	① 利用者様の情緒安定に繋げるための職員の支援スキルも並行しつつ、修繕計画も並行して行っている。修繕についてはその都度継続実施。

ウ 組織内の連携を強化し、強固な組織体制と経営基盤を確立する。

実施施策	報連相の徹底（達成率 80 パーセント）
現状と課題	児者併設の為、あらゆる情報が飛び交う中での報連相の徹底が疎かになっている。しっかり情報をまとめ、上司・職員がそれぞれ報連相の徹底を意識した環境づくりに努める。
取組の方向性	① 組織の流れの見直し

	② 連絡を受けたら必ず現場職員・上司に報告するという流れを徹底させている。継続実施。
取組の結果	① 支援変更の際には必ずサビ管に報告・相談を行い会議にて周知・振り蹴りさせることを徹底している。継続実施。 ② 関係機関等からの電話連絡などが頻繁にあるため、内容をしっかり確認しながらメモを取る習慣をつけるように周知してきた。継続実施。

3 目標利用率

事業名	定員	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均/月
生活介護事業	30	71.6	69.2	68.1	69.5	70.7	71.3	71.8	71.5	71.5	71.1	71.5	69.5	70.6
施設入所事業	30	73.2	71.8	69.8	76.7	75	75	76.5	76.2	76.4	75.2	73.3	73.4	74.3
日中一時事業	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
短期入所事業	2	0.7	0.5	0.3	0.6	0.5	0.6	0.5	0.7	0.5	0.6	0.8	0.8	0.56
生活困窮者就労訓練事業	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

4 固定資産物品購入計画

(単位:千円)

名称	執行見込額
給食課エアコン	548

5 修繕計画(大規模修繕を除く)

(単位:千円)

名称	執行見込額
間仕切工事	457.6
AED	352
旧館風呂場修理代	267.3
LED照明	466.1
重度棟廊下引き戸	264

6 大規模修繕計画

(単位:千円)

名称	執行見込額
なし	

